

The background features a large, light purple watermark of the Rikkyo University logo. The logo is circular with the text "RIKKYO UNIVERSITY" around the top and "MDCCCLXXI" around the bottom. In the center is a shield-shaped emblem containing the Latin motto "PRO DEO ET PATRIA".

特別支援学校におけるスポーツ活動の定着促進 ～スポーツを身近な存在へ～

立教大学 松尾ゼミナール B班

○丸茂 建太 秋山 奈穂 小檜山 匠 坂本 航 外岡 里佳子 中尾 彩夢

障害者のスポーツ実施状況

「スポーツを通じて
幸福で豊かな生活を営むことは、
全ての人々の権利」
(スポーツ基本法前文)

成人一般

週1回以上 40.4%

19.6

20.8

18

22.7

0.4

障害者

週1回以上 18.2%

8.5 9.7

36.6

58.2

5.5

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■ 週3日以上 ■ 週1-2日 ■ 週1未満 ■ 行なっていない ■ 分からない

図1 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(20歳以上)

出典:平成25年度文部科学省委託事業「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)報告書」・内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(附帯:テロ対策に関する世論調査)」(平成27年6月)

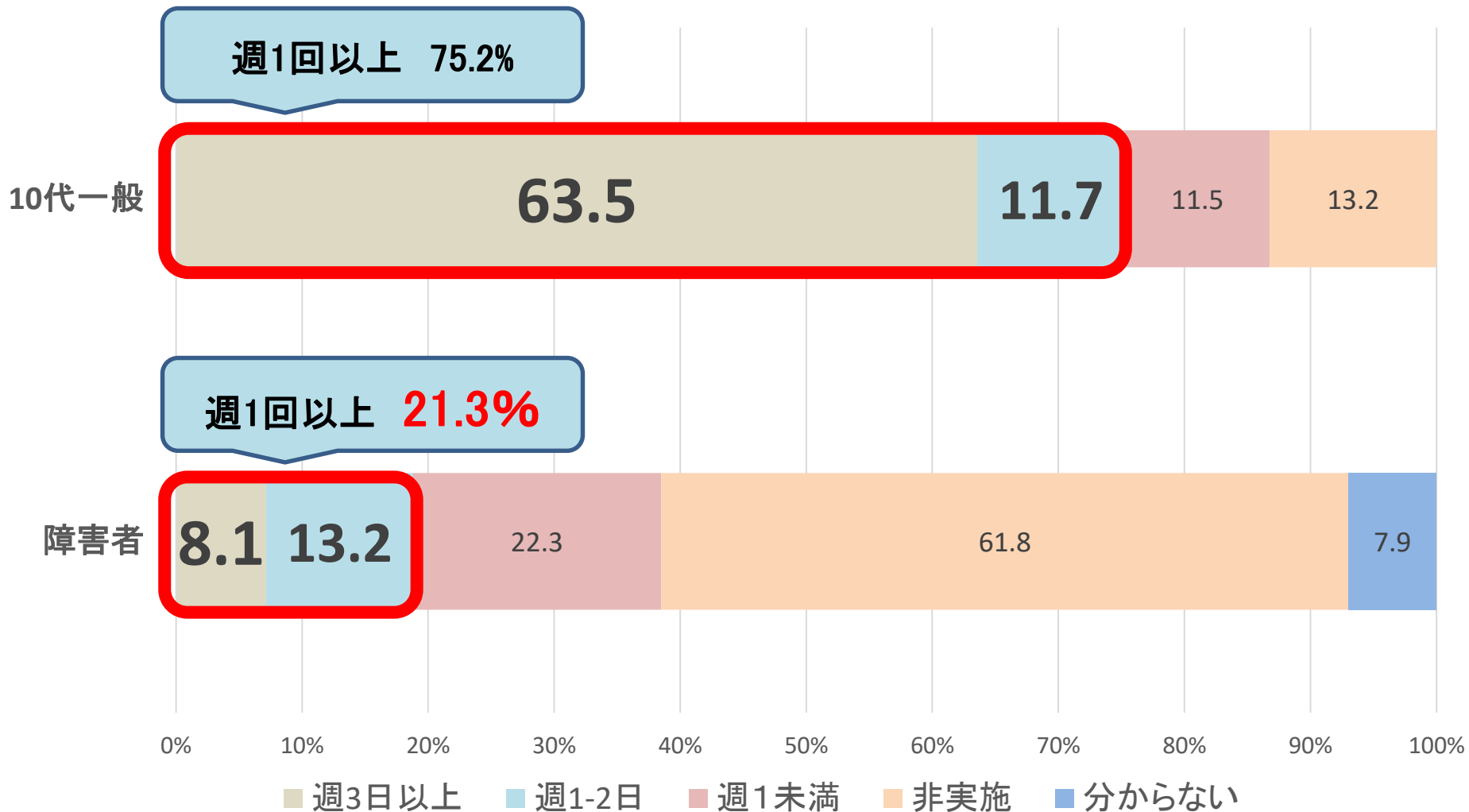


図2 10代の過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

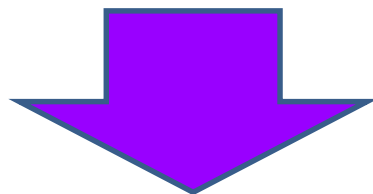
出典：平成27年度 スポーツ庁『地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）』報告書

笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」（2012）

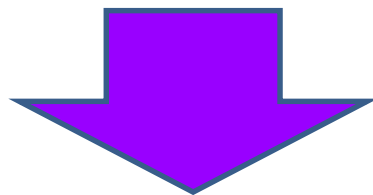
出典：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」（2015）

障害者のスポーツ実施状況

「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、
全ての人々の権利」
(スポーツ基本法前文)



健常者に比べて継続的にスポーツを行っている障害者は少ない



特に学生時代の障害者にとって
スポーツは身近な存在とは言い難い！

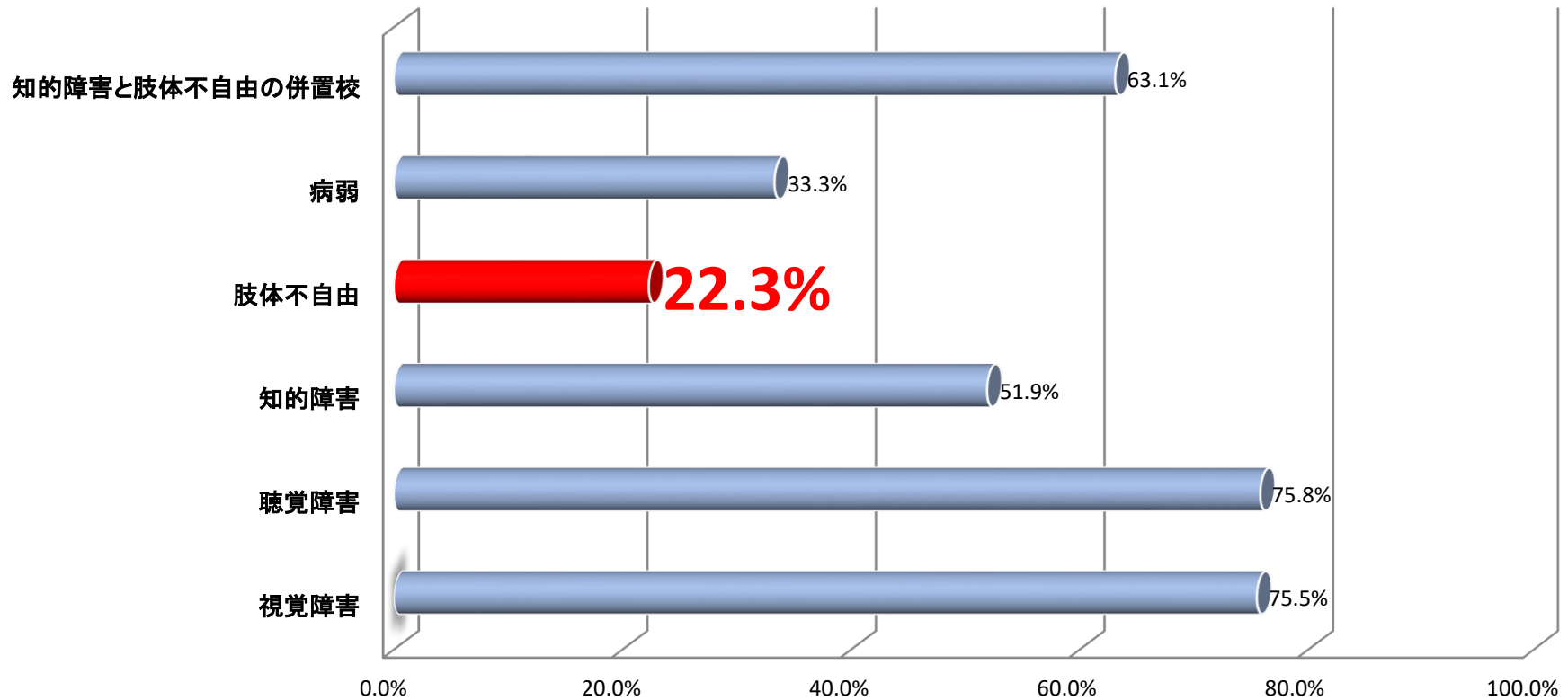


図3 特別支援学校高等部における運動部・クラブの有無（障害種別）

出典：文部科学省『特別支援学校のスポーツ環境に関する調査』（2014）

障害者の中でも肢体不自由の
スポーツの機会が制限されている

肢体不自由特別支援学校における 運動・スポーツの普及促進 を目的とした支援策



特別支援学校の現状

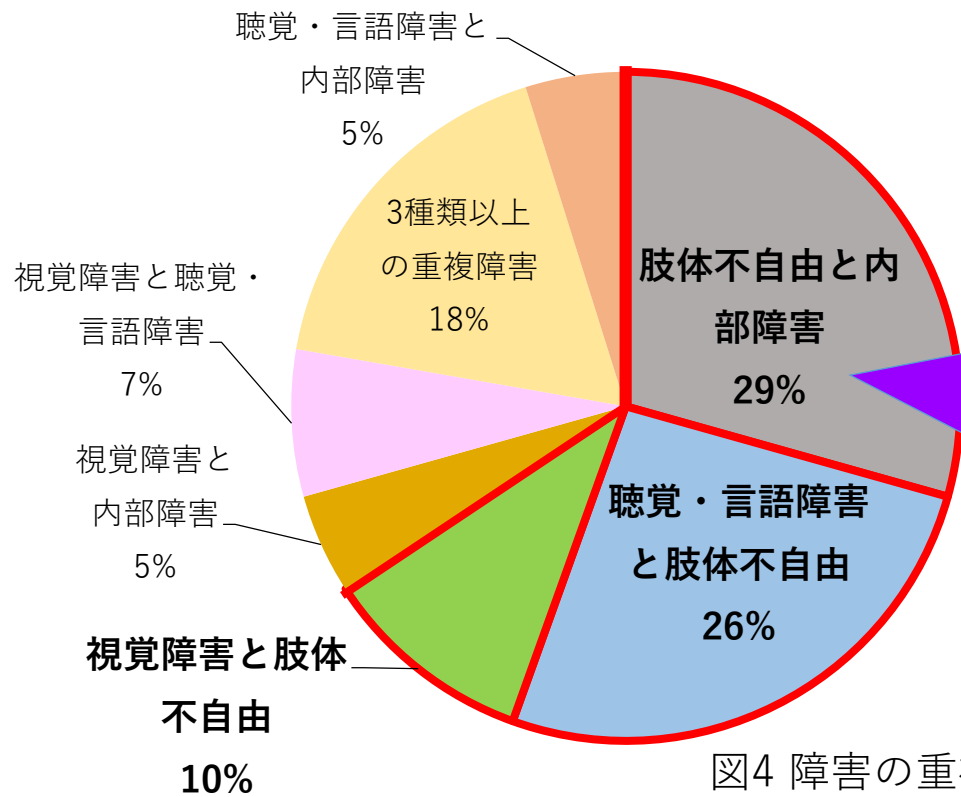
表1 特別支援学校の学校数・幼児児童生徒数

	学校数	幼児児童 生徒数
視覚	65	3,012
聴覚	88	5,932
知覚	514	76,410
肢体	130	11,666
病弱	63	2,472
総計	1,096	135,617

肢体不自由教育について

- 肢体不自由とは「**身体の動きに関する器官が、病気やけがで損なわれ、歩行や筆記などの日常生活動作が困難な状態**」とされている。（文部科学省 特別支援教育について）
- 「特別支援学校（肢体不自由）においては、…〈中略〉…中学校又は高等学校に準ずる教育を行うとともに、**特別活動及び自立活動**によって編成されています。」（国立特別支援教育総合研究所）と示されており、**各自にあったカリキュラムが編成されている。**

障害の重度・重複化について



**肢体不自由は
204,000人
(65.8%)**

図4 障害の重複状況に関するデータ
出典：平成26年度障害者施策に関する基礎データ集 - 内閣府

2015年の調査から、肢体不自由特別支援学校では**57.2%**の生徒が重複障害学級に在籍している。その中には、日常的活動も困難な生徒も少なくなく、医療的ケアを必要とする子どもも多く在籍している。

肢体不自由特別支援学校における 運動・スポーツについて

- 肢体不自由特別支援学校におけるスポーツについて和は「比較的軽い障害のある生徒が通う学校においてはバスケットボールやサッカーなどのクラブ活動の取り組み等が見られるものの、**比較的重い障害のある児童生徒も通う特別支援学校における取り組みは限定的である**」（和, 2011）と指摘している。

スポーツ参加によって得られた成果

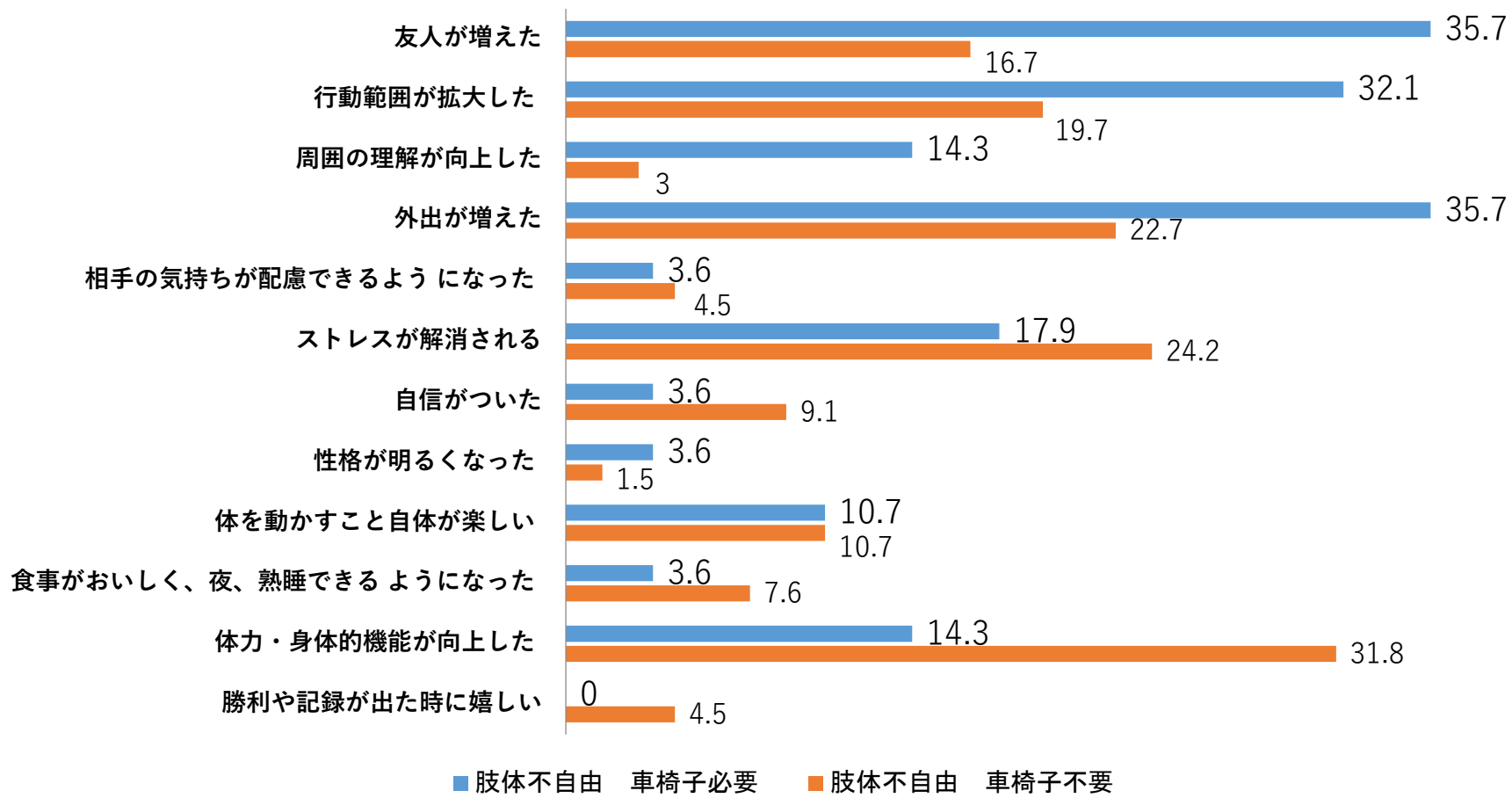


図5 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと

出典: 笹川スポーツ財団 『地域における障害者スポーツ普及促進事業 (障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』

現状と課題

スポーツに対する意識調査

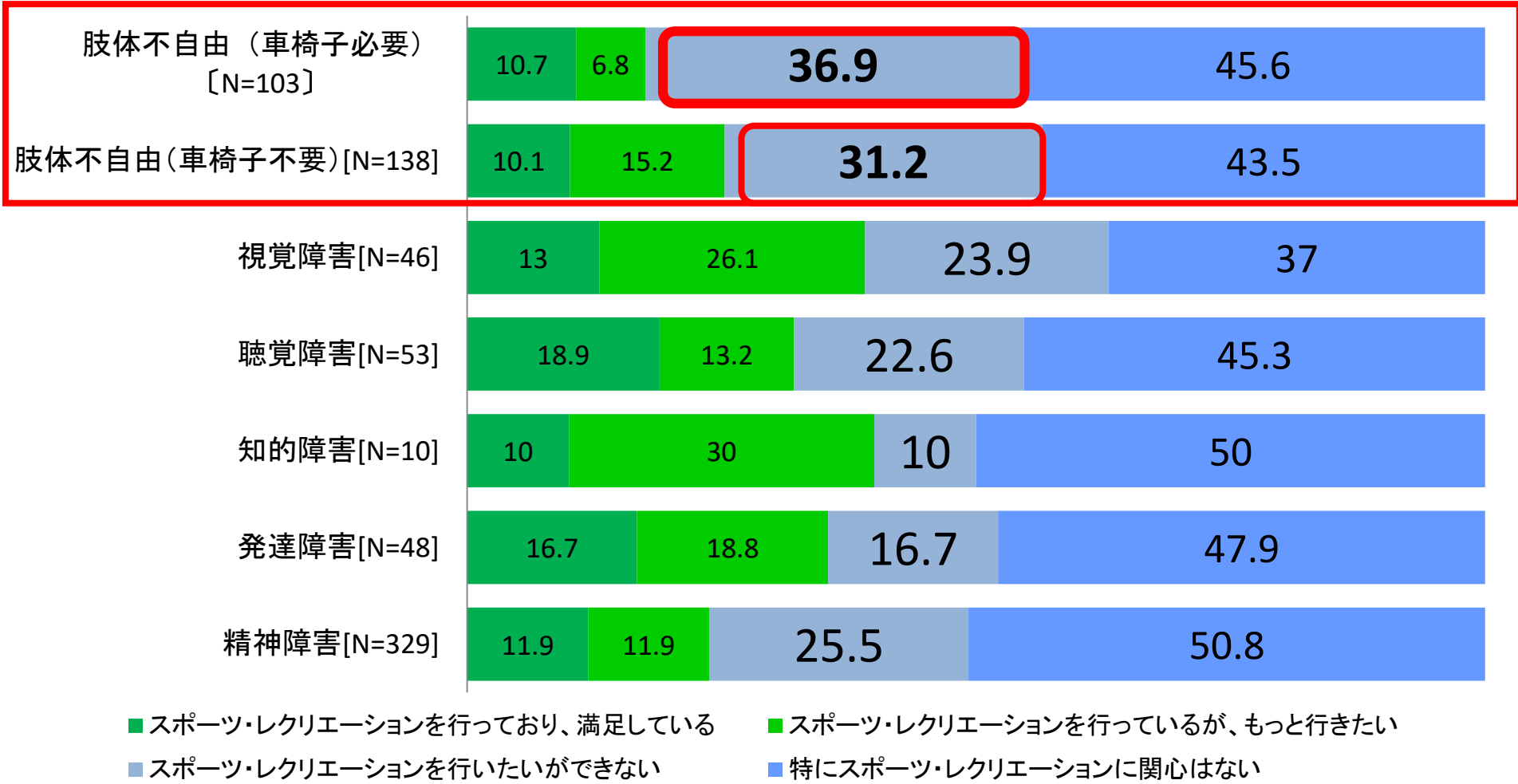
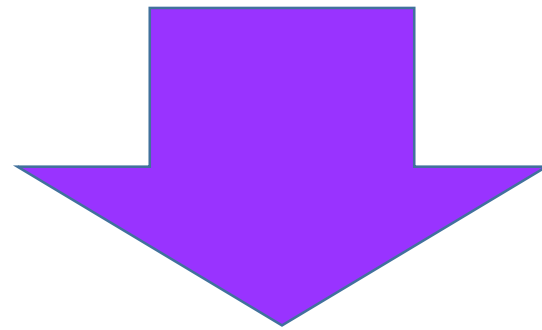


図6 スポーツ・レクリエーションへの取り組み（障害種別）

出典: 笹川スポーツ財団 『地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）』

特別支援学校における運動・スポーツの課題

肢体不自由特別支援学校に通う生徒らの
運動・スポーツへの取り組みは少ない



環境的要因が障害となり、
運動・スポーツに取り組む‘機会’が
非常に限られているのではないか？

特別支援学校現地聞き取り調査

○調査概要

訪問先：埼玉県立A特別支援学校（肢体不自由）

対象：教員A氏・B氏

時期：2016年9月7日（水）

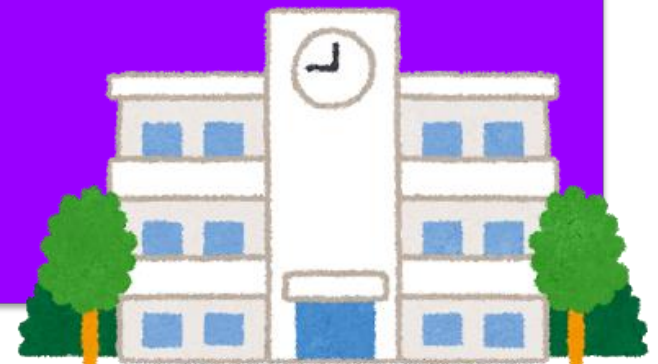
方法：半構造化インタビュー調査

得られた知見 ～運動・スポーツをめぐる現状と課題～

- 運動をする時間は体育の週1回のみ
- 運動部活動は設置されていない
- 年数回ある大会に任意で出場

例) 彩の国ふれあいピック(ボッチャ、陸上など)

- 大会前に放課後、練習を行っている程度である
- スポーツ活動に消極的
- 家族の参加意識が弱い



得られた知見 ～運動部を常設する上での問題点～

スクールバスがあるため
時間的に限られている

部活動をするには
人員不足

運動に対して
良い印象がない



すべての人にあった
プログラム作成が困難

先行研究より

- 肢体不自由特別支援学校において運動部活動が実施されない現状について和らは、「活動機会の少なさ情報の少なさ、障害の状況によって子ども達がスポーツを諦めてしまっている状況も予想される」（和ほか, 2016）と示唆している。

提言のポイント

家族が怪我の懸念をし、
障害によりスポーツはでき
ないと思いついでいるため

他者からの
協力不足

教員は通常業務の
負担が大きく
手が回らないため

運動に対して
良い印象を持って
いないため

ネガティブ
な先入観

時間的
制約

体育週1日、
スクールバスの
時間が決まって
いるため

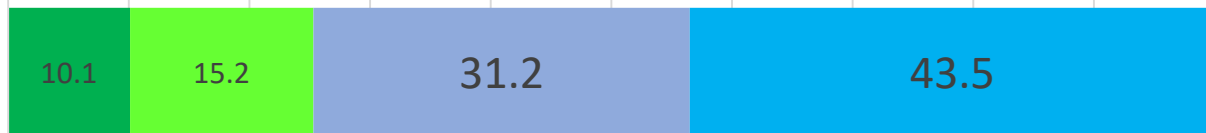
障壁となる三要素

まとめ

肢体不自由（車椅子必要） [N=103]



肢体不自由（車椅子不要）[N=138]



■ スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している

■ スポーツ・レクリエーションを行っているが、もっと行きたい

■ スポーツ・レクリエーションを行いたいができない

■ 特にスポーツ・レクリエーションに関心はない

出典: 笹川スポーツ財団 『地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）』

図7 スポーツレクリエーションへの取り組み（障害種別）

運動・スポーツをする
機会の増加を目的とした
プログラムを提案

はじめてのIPPPO プロジェクト



中心となる4つの活動

1. 日常的運動プログラム
2. 授業プログラム「自立活動」の活用
3. オールラウンドクラブの設立
4. スマイルスポーツイベントの開催

支援策を構成する上で大切にしたいスポーツの3要素

スポーツ

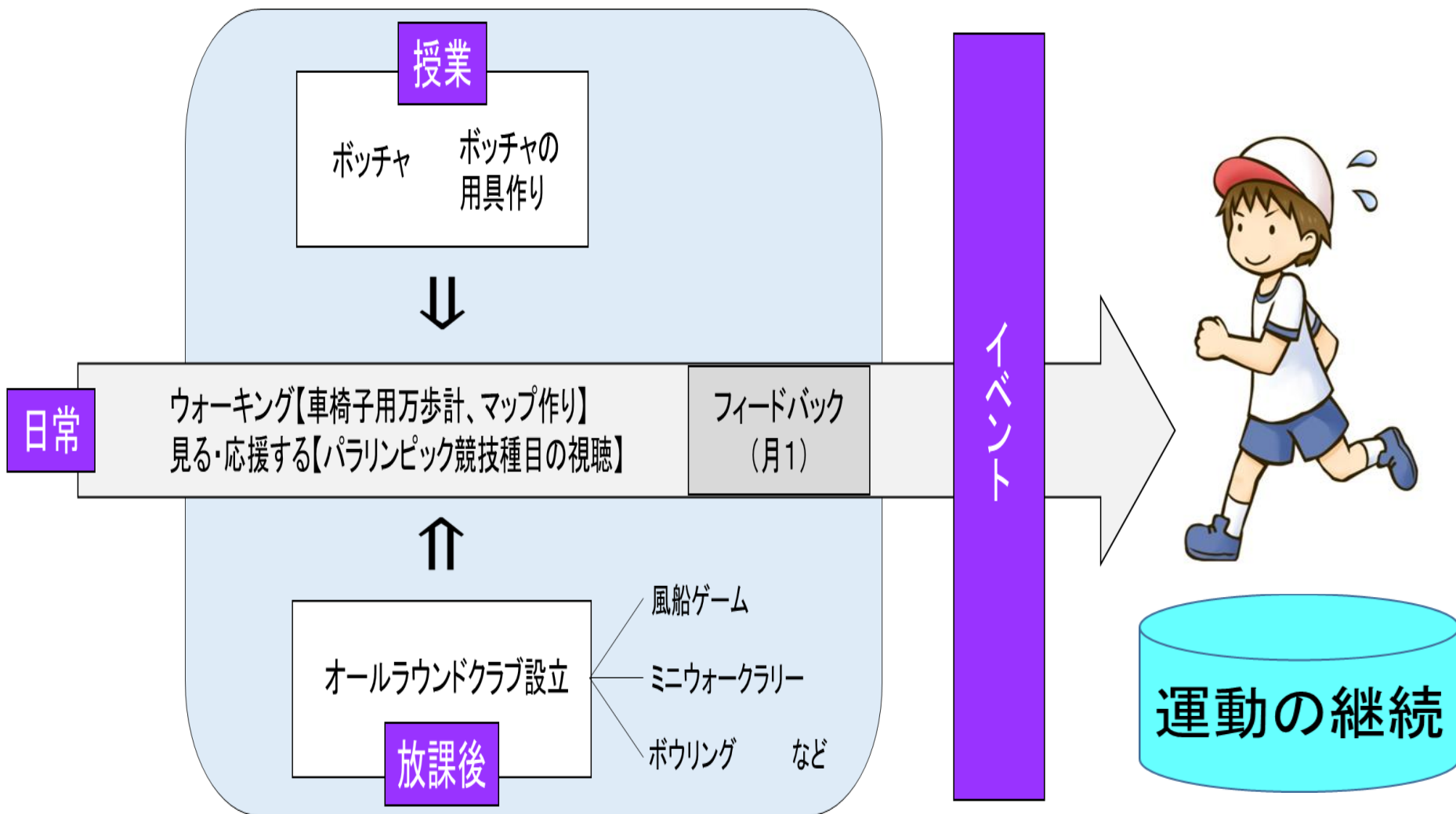
する

みる

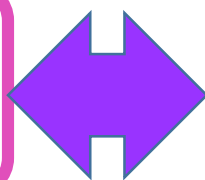
応援する



はじめのIPPOプロジェクト全体図



みる



応援する



- ・2020年東京パラリンピック競技22種目の競技VTRや試合映像を休み時間やお昼時間などにTVで放映する
- ・パソコンやスマートフォンでもみられるようにし、いつでも競技に触れられる環境を整える。
- ・スマートフォンのアプリなども活用し、より日常にスポーツを密着させる。



パラリンピック競技種目22競技に「目」でみて触れる機会を！

◎みるスポーツ



- ・指導員：教員
- ・サポート：保護者

〈目的〉

- ・どのような障害者スポーツがあるのかを教え、興味を持ってもらう
- ・スポーツの魅力・楽しさを知ってもらう

〈指導内容〉

- ・障害者スポーツを見せる

〈指導方法〉

- ・動画サイトにあげられているパラリンピックの動画を見せる
- ・ただ見せるだけでなく、ルールや何が見どころなのかを伝える

する

ウォーキング
をしよう！



- ・住んでいる地域について自分で歩いて知る
- ・万歩計、車いす万歩計(距離計)を用いて成果を目で確認
- ・自宅周辺のマップを配布し、歩きながら気づいた地域の特徴を記したオリジナルマップを作成
- ・定期的なフィードバックによるコミュニケーション

◎ウォーキング

・指導員：教員

・サポート：保護者

〈目的〉

スポーツに取り組む第一歩として自信をつけてもらう

〈指導内容〉

・万歩計の使い方

・地域マップについての説明

・安全に気を付けること

〈指導方法〉

・ホームルームで行う

・具体的な完成例を見せ、地域マップのイメージをつかませる。

・保護者に協力を求める



オリジナルマップの作成



授業「自立活動」の活用

- ・「自立活動」とは特別支援学校に設けられた授業カリキュラムの一つであり、以下の6項目を授業の目的としている。

体の動き

心理的安定

環境把握

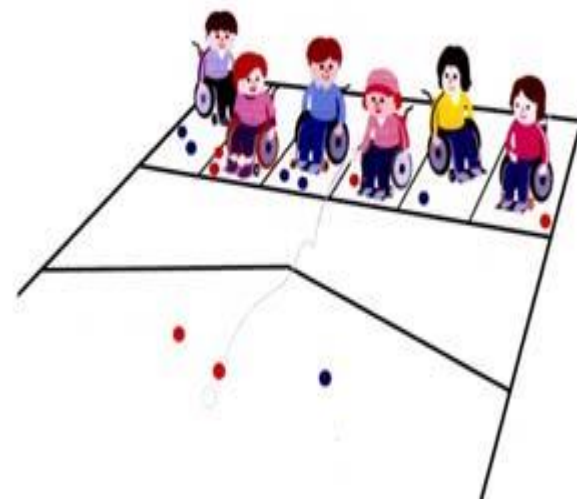
健康の保持

コミュニケーション
能力の向上

人間関係の
形成

ボッチャについて

障害レベル関係なく行える
それぞれのレベルに合わせてスキル
アップできる



- ・ ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目である。
- ・ ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う。

◎ボッチャ

・指導員：教員（障がいスポーツ指導員）

〈目的〉

・自立活動の一貫として行い、ボッチャを通じ様々な人とのコミュニケーションを図る

〈指導内容〉

・ボッチャのルール説明

・ボッチャの投げ方、蹴り方、ランプの使い方

・用具の作り方

〈指導方法〉

・用具づくりを教員、ボランティアで協力して教える

・障害のタイプ別に分かれ、手が使える生徒には投げ方を、足を使う生徒には蹴り方を、両方使えない場合はランプの使い方をそれぞれに分かれて教える。

・簡単なルール説明の後、タイプ別に分かれている生徒たちを均等にグループ分けし試合を行う



オールラウンドクラブの設立

- ・放課後をメインに活動
- ・種目は生徒自身で選択できる
- ・参加する日にちも選択可能



クラブ種目の例

- ・風船バレーボール
- ・ボッチャトーナメント
- ・らくがきウォーク
- ・ぞうさんオセロ
- ・シーソー玉入れ
- ・宝探しウォーキング
- ・お引越しリレー

など

世界ゆるスポーツ協会 参照
<http://yurusports.com/>

◎オールラウンドクラブ



・指導員: 教員

・サポート: 実行委員

〈目的〉

・運動習慣を身に付ける

・各々の好きな種目を選択して実施することにより、自主性も育む

〈指導内容〉

・実施するスポーツのルール説明

・練習と実践を行う

〈指導方法〉

・放課後が始まると同時に説明を、口頭と実践して見せることで教える

・楽しみながら実施することを念頭に置き、教員もボランティアも声掛けをしていく

スマイルスポーツイベントの開催

- 夏休み、冬休みなどの長期休暇でイベントを開催
- 普段行うウォーキングやオールラウンドクラブでの活動を基盤とする
- 一般の人と一緒にできる参加プログラムの用意
- 大学のキャンパス、公園などを使用



第1回スマイルスポーツイベント

日時: 2017年8月8日(火)
スマイルの日

場所: A大学Bキャンパス
・総合Aグラウンド
・体育館Bアリーナ
・体育館Cアリーナ

時間: 10時開会式～16時閉会式

タイムスケジュール

- 10:00 開会式
- 10:15 とびきりの笑顔で！
Hiチーズ選手権
- 10:30 風船バレー
- 11:30 宝島ウォークラリー
(一般参加)
- 12:00 お昼休憩
- 13:30 ぞうさんオセロ
- 14:30 ボッチャ大会
- 16:00 閉会式・表彰



◎スマイルスポーツイベント

- ・指導員：スポーツ推進委員
- ・サポート：事務局、実行委員、保護者の会

〈目的〉

- ・これまでの成果を発揮する場、保護者などの重要な他者への発表の場を設けることでモチベーションアップ
- ・障害のあるなしに関わらずみんなでスポーツを楽しむ

〈指導内容〉

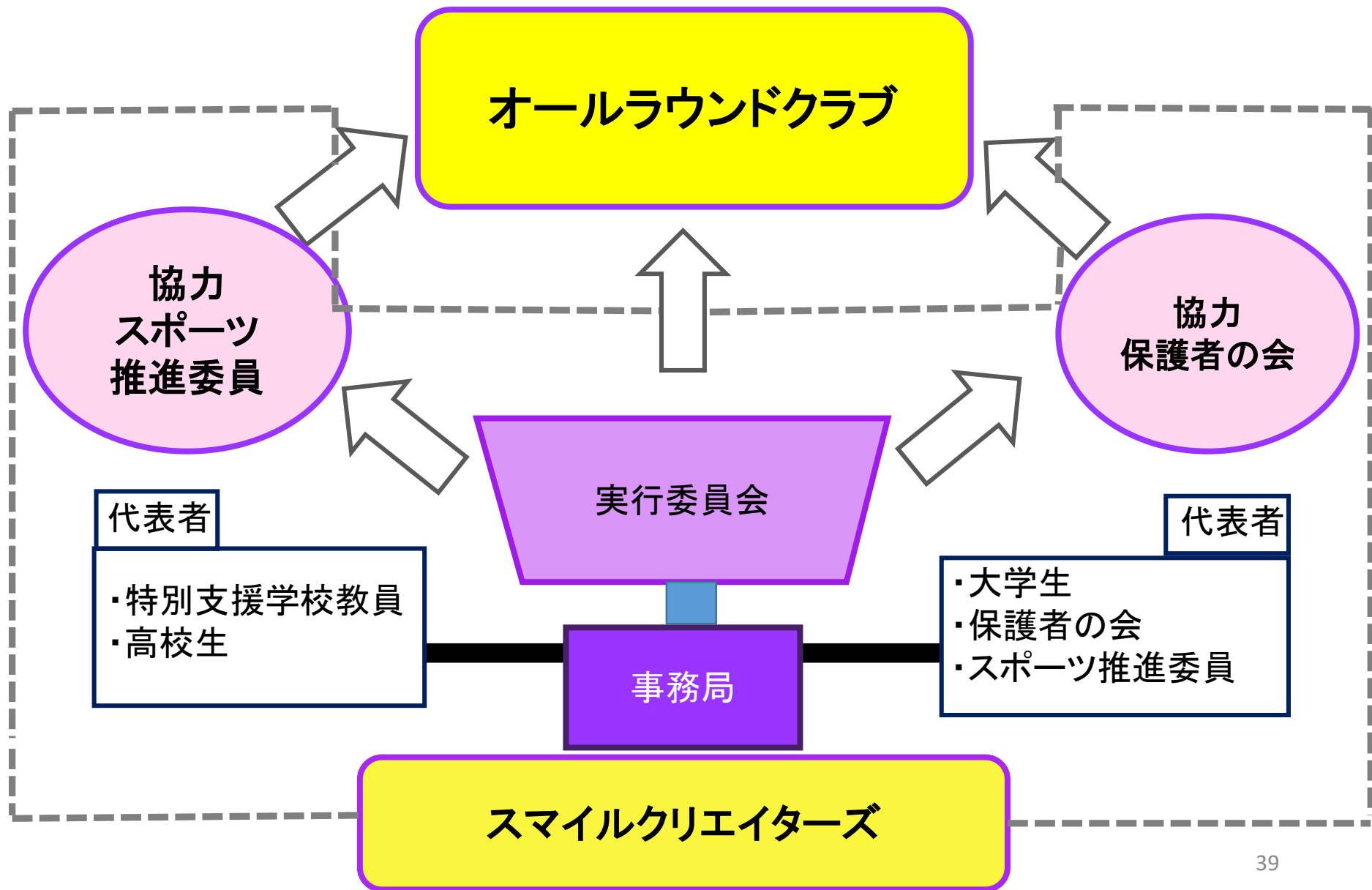
- ・開催種目のルール説明
- ・安全面の注意
- ・楽しむこととこれまでの活動を発揮すること

〈指導方法〉

- ・イベント当日開始前に集合時にルールの説明
- ・イベントの終了後に生徒やボランティアなどみんなで振り返りをする



運営体制図



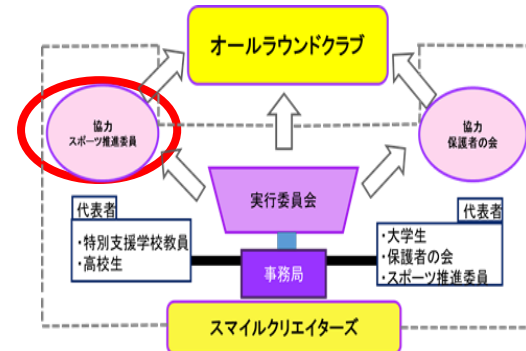
スポーツ推進委員

そもそも
「スポーツ推進委員」
とは？

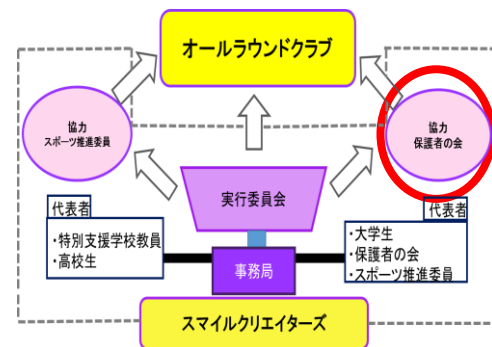
- ・スポーツの実技の指導
- ・その他スポーツに関する指導・助言
- ・スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整

今回の
役割

- ・実行委員会の研修を担当
- ・事務局に所属し、日程調整やプログラムのアドバイスをする
- ・イベント当日にサポーターとして参加



保護者の会（全肢連）



《構成》

- 一般社団法人 全国肢体不自由児者父母の会連合会埼玉県支部
- 各学校の障害者生徒の保護者

《役割》

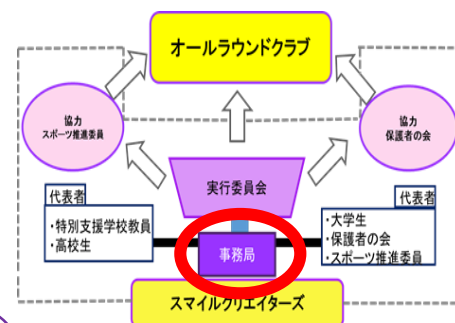
- 特に学校外で行われる日常の活動にて生徒のサポート
- 子供を毎日見る親の視点から企画の安全面などを考慮



《効果》

- 直接この活動に携わることにより、子供がどのように学校や課外で生活しているのかを把握し→不安を取り除く効果
- 学校と保護者の繋がり
- 保護者のコミュニティ拡大→助け合い
- どのような点に留意して保護者と連携を図ったらよいか連携がとれる

事務局



5・9月

- 顔合わせ
- 教員・保護者からの声(生徒の現状把握)、スポーツ推進委員による留意点指導
- 各活動の日時・場所の設定

6・10月

- 学生ボランティアの企画発表
- 代表者による検討会、予算などの確認
- ボランティアの募集

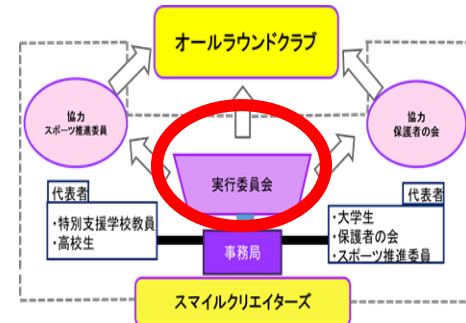
7・11月

- 参加生徒の健康状態などを把握
- 活動当日の流れ、留意点の確認



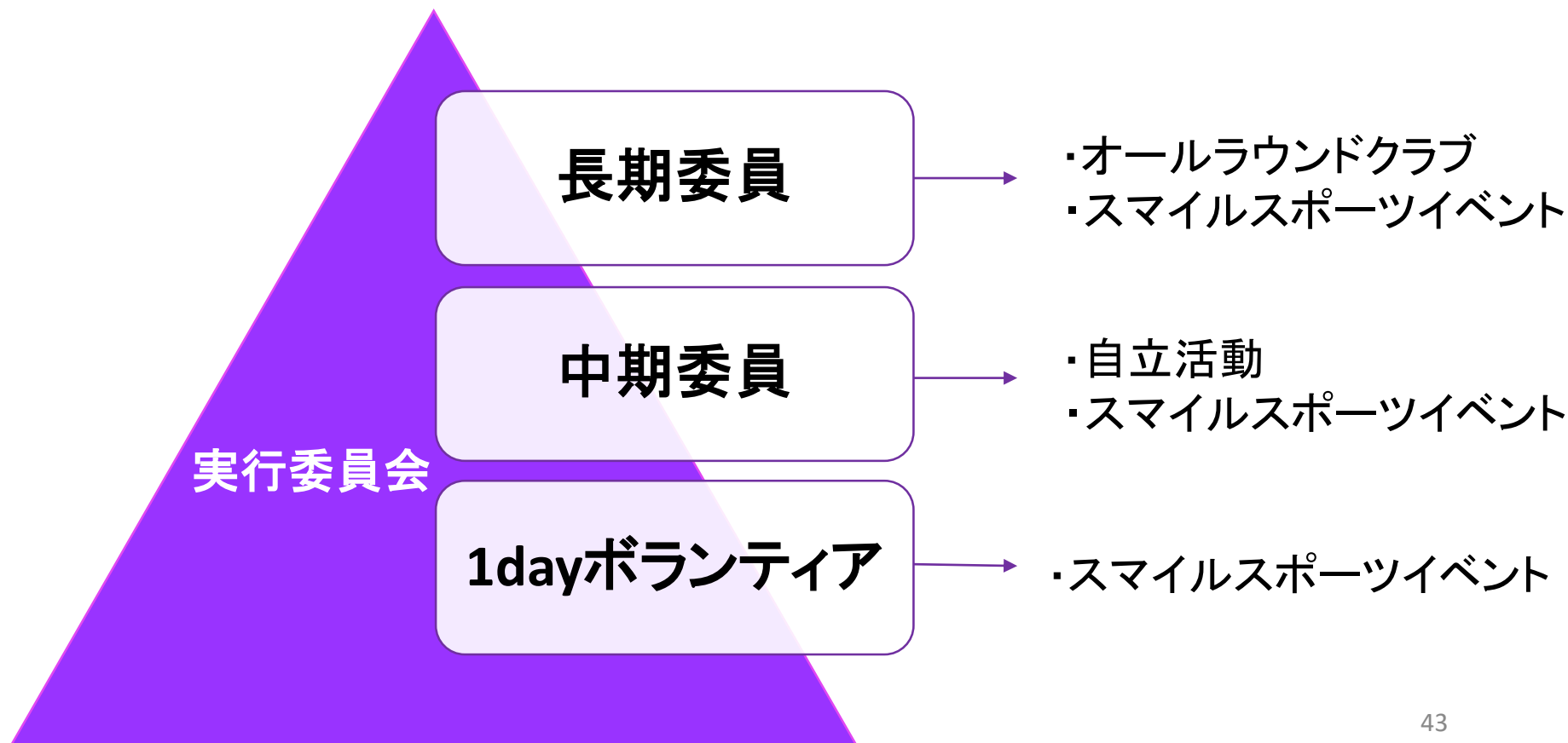
夏は8月、冬は12月のイベント開催に向けて定期的に会議を行う

実行委員会



《構成》

活動に直接参加しサポートする大学生、教員、高校生ボランティア有志の集まり





実行委員の募集

《呼びかけ方法》

- ・事務局の学生が通う学校へポスターや声掛け
- ・事務局スタッフの知り合いなどへ連絡
- ・Facebookにおいて宣伝

長期委員

- ・条件: ボランティア活動に関心があり、オールラウンドの活動当日に加え最低1回は事前研修に参加できること
- ・募集人数: 10人

中期委員

- ・条件: オールラウンドの活動当日に加え最低1回は事前研修に参加できること
- ・募集人数: 10人

1dayボランティア

- ・条件: スマイルスポーツイベント当日に参加できること
- ・募集人数: 40人(※生徒参加人数により異なる)

イベント実行委員の研修

スポーツ推進委員による養成プログラムを実施

1か月前・2週間前

長期委員

- ・事前研修
- ・緊急時の対応訓練
- ・生徒補助の仕方
- ・学校訪問

など

1週間前・前日

中期委員

- ・事前研修
- ・安全面の指導
- ・生徒補助の仕方

など

当日

1 dayボランティア

- ・安全面の指導
- ・生徒補助の仕方
- ・ルール理解

など



スマイル
スポーツ
イベント当日！

イベント広報

- A4チラシを作成
- ポスター作成→学校の掲示板に掲示
- 地域の回覧板への掲示
- 申し込み用フォームを作成（代表者TEL付き）
- 学校だよりに掲載申請



各活動における運営費 (参加生徒70人仮定)

日常的運動

- 広報費(保護者向け説明のプリント、ポスター等:5,400円)、用具費(車いす用万歩計(スピードメータ):1,080円×70、万歩計用電池20個入り:216円×4、マップ印刷代:1枚10円×70)※用紙は裏紙を使用するため不要、パラリンピック競技VTR(某動画サイト:不要)

自立活動 (週1)

- 用具費(ランプ3台、ボール1人1個、雨どい:648円×3、Chappy 48mm空カプセル10個入り:151円×7、隙間テープ:108円×3、砂:不要)

オールラウンド クラブ(月1)

- 用具費(風船:108円)、ボウリングピンペットボトル・学校のサッカーボール・チェックポイント用紙:裏紙使用のため不要)

スマイル スポーツイベント (年2回程度)

- 広報費(ポスター等:10,800円)
- 用具費(学校にあるものを活用するため不要)
- ボランティア謝礼(昼食代:432円×60、飲み物代108円×60)

合計
61,157円
(税込)

《不要》
○スポーツ
推進委員
派遣費
⇒規定により
○施設費
⇒全て学校内
もしくは大学
キャンパス内
にて行うため

《自己負担》
保険料216円
(イベント毎)

運営資金の捻出



各市町村の社会福祉協議会に登録
(事務局が中心となり行う)



- ・地域福祉部と連携をとり、活動のアドバイスや運営面の支援を受ける
- ・ボランティア活動振興助成金の申請

☆地域の社会福祉協議会と連携をとることにより、地域住民に対する活動の広報も行える

期待される効果



- ① 継続的な運動習慣の定着により運動そのものにもプラスなイメージを与えること。
- ② 競技をみることによって、2020年東京パラリンピックへの興味関心が高まること。
- ③ スポーツから得た自信は日常生活にも好影響を与え意欲的な行動のきっかけになること。
- ④ 地域に根付いた活動から運動の楽しさだけでなく、社会との壁を払拭し地域との密着が図れること。

期待される効果

日常的運動
でネガティブ
な
印象を取り
除く。

実際の競技種
目をVTR-動画
サイトで視聴

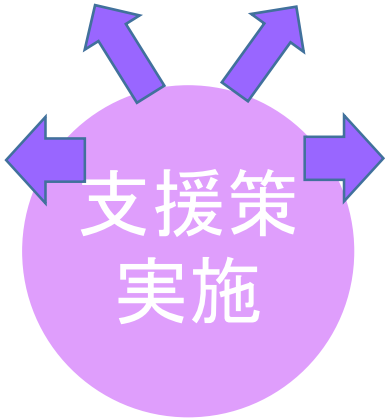
成果の発揮、
発表の場を設
け、運動意欲
の向上

②2020年
オリパラへの
興味関心

③意欲的な
行動

地域の人々
と協力・連携
しての運動

①運動への
プラスな
イメージ



④地域連携



参考文献

- ・和 史朗(2011) 重度障害者を対象としたアダプテッド・スポーツの試み
ー肢体不自由特別支援学校における野球指導を通してー. 北翔大学北方圏生涯スポーツ
研究センター年報 第2号p.57-p.62
- ・和史朗(2015) 肢体不自由特別支援学校に在籍する児童生徒を対象とした
ベースボール型競技の資料、北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要第6号p.51
- ・和 史朗・松村 美佳子・阿部 達彦・瀧 澤聡(2016) スポーツ活動への参加が肢体不自由
特別支援学校の児童生徒とその家族の心理に及ぼす効果 ～ゴロ野球チームへの
アンケート調査を通して～. 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要 第7号p.173-p.184
- ・澤江幸則(2015) 障害のある子どもたちと障害のない子どもたちの協働活動の現状と
課題、日本アダプテッド体育・スポーツ学会企画、p.4
- ・杉本久吉 加藤康紀(2015) 特別支援学校(肢体不自由)の現状と課題：専門性のある
人材の育成. 創価大学教育学部・教職大学院.
- ・田添敦孝(2015) 特別支援学校における2020年パラリンピックへの新たな
取り組みについて(特別支援学校紹介)、『アダプテッド・スポーツ科学2015』、p.53